

「青森県を核のゴミ捨て場にするな！」アピール文

2024年9月26日、東京電力・柏崎刈羽原発の使用済核燃料が、日本初のむつ中間貯蔵施設に搬入されました。

この使用済核燃料を「50年以内に運び出す」と国も事業者も言っています。しかし、運び出せるという保証は全くありません。六ヶ所再処理工場は、着工から30年経った今もまだ竣工していませんし、たとえ50年後に六ヶ所再処理工場が存在していたとしても、着工から80年を経過したオンボロ工場に過ぎません。むつ中間貯蔵施設に持ち込まれた使用済核燃料は、六ヶ所再処理工場でも再処理される保証もありません。

使用済核燃料は、再処理しなければ高レベル放射性廃棄物として処分されるもので、それがむつ市と六ヶ所村の施設に増えれば増えるほど、下北半島が核のゴミ捨て場にされる危険性が高くなり、絶対に阻止しなければなりません。

すでに六ヶ所村には、我が国唯一の低レベル放射性廃棄物埋設センターが操業し、核のゴミの量は年々増えています。

さらに、30年から50年間の一時貯蔵の約束で六ヶ所村に搬入された、高レベルガラス固化体の最終処分場操業の見通しがたたず、貯蔵期間が延長され、なし崩し的に青森県が最終処分地にされるのではとの不安も高まり、国と事業者を信頼することはできません。

10月10日に電気事業連合会が、青森県知事と六ヶ所村長に「フランスから返還される予定の低レベル放射性廃棄物の代わりに、同じ線量の高レベルガラス固化体として六ヶ所核燃サイクル施設で受け入れてほしい」という要望をしてきました。宮下青森県知事は「理解も協力もできない」と突っぱねましたが、足元を見られています。国も事業者も「青森県は金さえ積めば、高レベルガラス固化体も受け入れるだろう」と考えているということです。

このような「悪魔の連鎖」は止めなくてはなりません。私たちの世代のうちに、未来の子どもたちにツケを回すような連鎖をきっぱりと断ち切らなくてはなりません。

「あらゆる原発を廃炉にし、再処理をやめて再処理工場は直ちに廃止措置にする」このこと以外に、この「悪魔の連鎖」を断ち切る手段はありません。

これ以上、核のゴミを作り出してはならないし、もうこれ以上、いかなる核のゴミも青森県に運び込ませてはなりません。

青森県を核のゴミ捨て場にしないために、今現在、生きている私たちが全力で頑張るしかありません。

未来の子どもたちに、美しいふるさとを残すために頑張っていきましょう！

2024年11月30日

核ゴミいらない青森フォーラム参加者一同